

安全・安心の町を目指して 夢と希望を与える行政運営

平成二十二年第一回町議会定例会が、三月二日から二十三日までの二十二日間にわたり行われ、初日に川村光朗町長が町政運営の所信を述べました。ここでは、町長の平成二十二年施政方針（要旨）と予算の概要についてお知らせします。

私は、「創造、決断、実行」を基本理念とし、町民誰もが安全安心で幸せを感じることをできる町の実現を目指し、対話の中から町民の皆さまが何を求めているかを見出しつつ、ご意見を尊重しながら町勢発展のため最大限の努力を傾注し、誠心誠意取り組んでまいりました。

町内の情勢を見ますと、昨年、矢巾中学校の移転改築事業は白沢地区に用地を取得し造成工事が順調に進んでおり、併せて校舎等の建設に向け、基本設計を進めているところです。また、矢幅駅周辺の区画整理事業である駅前地区は、民間活力の導入を図り事業着手に向けた準備が進められております。さらに、岩手医科大学の総合移転事業は、平成二十三年四月に医学部・歯学部が四年生までが矢巾キャンパスで授業を開始できるように教育施設や研究施設の建設が始まってお

り、町は活気に溢れ、今後のまちづくりの推進に期待を寄せております。スポーツでは、カヌー競技でロンドンオリンピックを目指している太田出身の水本圭治選手や、夏の甲子園・準決勝で花巻東高校の先発投手を務めた西徳田出身の吉田陵投手の活躍が見られ、さらには、不動剣道スポーツ少年団の全国大会出場、陸上競技走り高跳びで矢巾中学校二年の佐藤麗君、煙山小学校六年の愁君の兄弟がそろって全国大会へ出場する快挙を達成しました。文化面では、全日本合唱コンクール全国大会において不来方高校が二年連続十回目の金賞に輝き、また、矢巾北中学校特設合唱部が、全日本合唱コンクール岩手県大会で金賞を受賞するなどすばらしい成果を残しました。今年に入り、室岡行政区の横澤高徳さんが、バンクーバー冬季パラリンピックのアルペンスキー日

本代表に選出されたという、うれしい報告がありました。平成二十二年予算の概要について、第六次矢巾町総合計画の施策の大纲であります五つの施策体系に沿って、主要な事業に関し、具体的な取り組みや直面する課題について、ご説明申し上げます。（左ページを参照）次に、基本理念である「みんなであつくる うるおい豊かに躍進するまちやばば」を実現するため、協働による行政諸施策の実態を正しく町民に周知するとともに、広く町民の声を聴き、理解と協力を得ながら強い信頼関係を築き、住みよい地域社会を自らの手で形成する組織的活動を積極的に支援してまいります。

平成二十二年度は、第六次矢巾町総合計画前期基本計画の最終年度を迎えることから、前期五力年の実施計画

に掲げる事業の課題や達成状況などを検証し、影響、効果、今後の方向性などの総括を行い、前期基本計画の総仕上げをするとともに、平成二十三年度からスタートする後期五力年の基本計画の策定に、鋭意取り組んでまいります。

普通会計の中期的な財政見通しは、歳入面において、依然として景気後退の影響が続き、当面は自主財源である税収入の伸びが期待できず、依存財源である国庫支出金及び県支出金においても、事業仕分けの影響や公共事業の削減から、従前の交付額は期待できない状況と見ております。地方交付税においては、平成二十二年度は増額されたものの、一括交付金制度や税制改革の動向により、今後大きく変貌する可能性もあり、先行きが不透明な状況に変わりありません。また、歳出面では、平成二十三年度から実施される、



平成 22 年度 施政方針の主な施策

①自然、都市と農村が調和するまちづくり

農業基盤整備事業では、徳田第二地区と下矢次地区のほ場整備事業を推進します。都市的基盤整備の矢幅駅周辺整備における駅前地区については、岩手医科大学附属病院の移転に合わせた整備が求められるため、平成 22 年度の仮換地の指定および平成 23 年度の民間活力の導入による工事着手を目指します。

幹線道路網の整備については、岩手医科大学の総合移転計画並びに矢巾中学校建設計画等との整合性を図りながら、国の交付金等を活用し、アクセス道路の整備と田浦線の新設に向けた計画を取り進めます。徳田橋の架け替えについて、早期の工事着手に向けて引き続き要望活動を展開します。岩手医科大学附属病院への緊急車両等の乗り入れが可能となる「矢巾パーキングエリア」への「スマートインターチェンジ」の設置に向けて、周辺道路を含めた整備について調査設計業務を行います。

②地域に根ざした活力ある産業のまちづくり

農業の振興について、水田利活用自給力向上事業と米戸別所得補償モデル事業が始まります。これまでの産地確立交付金などが廃止されることから、水田経営所得安定対策や水田利活用自給力向上事業での激変緩和措置も行うことになっています。国の対策を最大限に活用し、農家の所得向上のため、関係機関との連携を推進します。

商工業の振興について、町内中小企業の安定した雇用の確保や企業の健全経営を支援するため、資金融資事業による中小企業振興資金利子補給や小規模小口資金保証料補給制度の円滑な運営に努めます。また、景気対策として、平成 24 年度までの 3 年間、町民が町内業者による住宅リフォームを行った場合に、矢巾町共通商品券を交付する助成事業を新たに実施します。

③安全で快適なやすらぎのあるまちづくり

環境保全について、平成 22 年度から「町指定ごみ専用袋」の使用を開始し、ごみの減量と環境にやさしい社会の実現を目指します。特に事業系ごみの減量を図るため、各事業所のごみ排出量やごみ組成調査を行い、適正な分別による資源化に取り組みます。併せて、資源回収活動を積極的に支援し、さらなるリサイ

クル活動の推進を図ります。また、その他プラスチックとその他紙製容器包装の分別回収実施に向けて、全町を挙げて取り組みます。

ハザードマップについて、現状に合わせて見直しを行い、災害時にスムーズな対応ができるように新しいハザードマップを作成し、全世帯に配布するとともに、変更点のある行政区への説明会を開催します。

④安心して生きがいのある健康長寿のまちづくり

健康づくりについては、特定健康診査、特定保健指導とヘルスアップ事業を組み合わせ、岩手医科大学の指導を受けながら強化地区を設け、受診率の目標値を達成できるよう、平成 24 年度まで体制を強化していきます。特定健康診査について、基本健診項目に貧血、心電図、眼底検査の詳細な健診項目と、尿検査の付加健診項目を追加し、国民健康保険に加入している受診者は無料で実施します。また、検診率の低い胃がん検診を強化し、早期発見・早期受診につながる体制づくりを進めます。さらに、昨年、新型インフルエンザが大きな影響を及ぼしたため、予防接種の助成制度を整備します。「矢巾町健康長寿のまち宣言」のもとに、行政と町民が連携し共に支え合い、生涯健康であり続けられるよう、保健・医療・福祉が充実した「日本一健康な町やはば」を目指します。

子育て支援については、幼児期の子育て環境の充実を目指し、就学前の子どもの医療費助成について、所得制限を撤廃し、さらに窓口の一部負担についても半額を助成することとし、医療費支援を拡充します。徳田保育園の移転事業は、平成 21 年度に取得した用地の造成工事等を行い、施設整備の充実を図ります。また、中学校修了までの子どもを対象に支給される「子ども手当」について、新制度の適切な執行と併せ、子育て環境の充実を目指します。

⑤たくましく豊かな心を育てるまちづくり

子どもたちが学校、家庭、地域との連携、協働のもと、より良い環境の中で教育を受けられるように、各学校の施設改善はもとより、環境づくりに努めます。特に、矢巾中学校の移転改築事業につきましては、平成 22 年度は実施設計を行い、校舎棟、屋内運動場の建設に取り組みます。

第六次矢巾町総合計画後期実施計画の事業への予算配分が必要となり、さらに矢幅駅前地区土地地区画整理事業の本格着工も始まることから、大きな支出が続くと見込んでおり、ほか、公共施設の安全管理の面から維持補修費の増大も見込まれます。

このような財政状況であっても、財政の健全化を第一に考え、町民の皆さまに不安や不信感を与えないよう健全経営に努めます。平成 20 年度決算では「実質公債費比率」十九・四割と前年を〇・八ポイント下回り、平成 24 年度には、同比率が健全化の基準である一八・〇割未満を達成できるよう、随時事業の見直しや効率的な起債の活用を検討してまいります。

平成 22 年度は、矢巾中学校の移転改築事業に重点的に予算を配分しておりますが、その他の事業においては、事業執行に支障が生じないよう必要最小限の予算を配分するなど、創意と工夫で効率的な事務事業を行い、経費の削減に取り組みます。併せて公債費負担対策として、延長された補償金免除繰上償還の活用を検討し、将来の負担軽減に努めます。

今後も安全安心の町を目指し、思いやりの心を重視し、「スピードアンドチャレンジ」と「変革」をキャッチフレーズに、創意と工夫を凝らし、業務に取り組んでまいります。私は、町民に夢と希望を与える行政運営を行うため、全力を傾注し、町政を遂行してまいります。

予算

92億7,020万円

限られた財源を有効に活用

主な事業の内容

<単位：万円(千円を四捨五入)>

民生費

- ▶ 重度心身障害者医療費助成事業…… 8,644
- ▶ 身体障害者福祉事業…… 56
- ▶ 障害者自立支援給付事業…… 2億8,297
- ▶ 地域生活支援事業…… 1,884
- ▶ 老人福祉総務事業…… 1,499
- ▶ 介護予防事業…… 1,467
- ▶ 地域子育て支援拠点事業…… 590
- ▶ 児童手当・子ども手当給付事業…… 5億3,847
- ▶ 私立保育園助成事業…… 1億9,020
- ▶ 母子福祉医療費助成事業…… 7,003

教育費

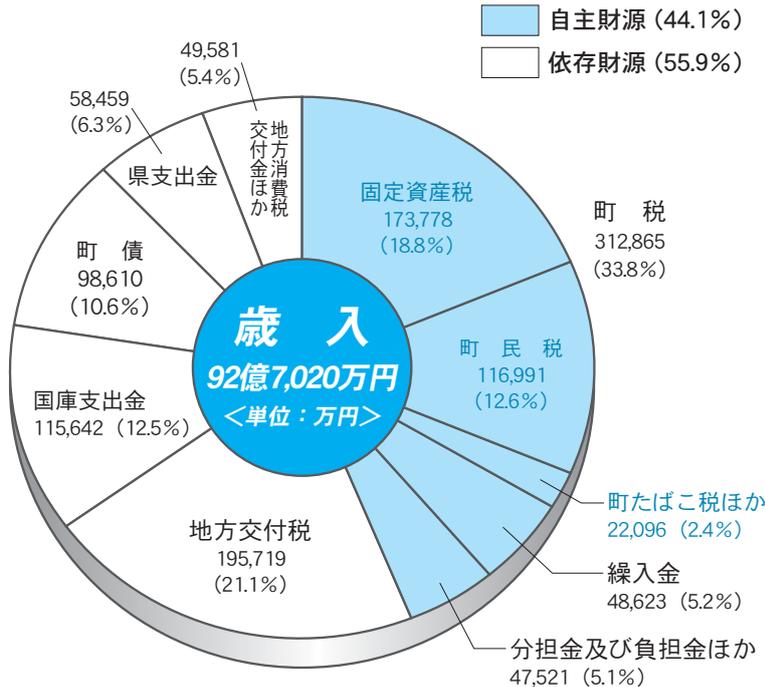
- ▶ 教育研究所運営事業…… 726
- ▶ 小学校整備事業…… 476
- ▶ 小学校教育振興事業…… 2,680
- ▶ 小学校英語力向上事業…… 160
- ▶ 中学校教育振興事業…… 2,644
- ▶ 中学校基礎学力向上事業…… 65
- ▶ 矢巾中学校建設事業…… 9億3,591
- ▶ 芸術文化振興事業…… 128
- ▶ 自治公民館運営事業…… 477
- ▶ 埋蔵文化財発掘調査事業…… 1,451
- ▶ 体育施設運営事業…… 610

予算は、4月1日から翌年の3月31日までの一年間に、町がどんな仕事にどれくらいの経費をかけて行おうかを示すもので、一般会計と特別会計、企業会計の三つからなっています。

一般会計予算

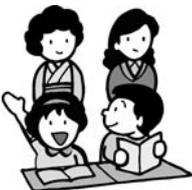
平成22年度の一般会計当初予算は92億7020万円となりました。矢巾中学校建設のため教育費が大幅に増大し、国の政策である子ども手当も含まれているため、前年に比べて総額で約12億円増額(15.2%の伸び)となっています。

町に入るお金(歳入)は、自主財源である町税が景気の低迷による個人所得の落ち込みから、前年に対して約9千5百万円減額の見込みであり、依存財源である国庫支出金や町債は中学校建設補助金



*** 財政用語解説 ***

■地方交付税＝町の財政力に応じて国から配分されるお金 ■町債＝大きな事業を行うときに借入るお金 ■国庫・県支出金＝事業に対し国や県から交付される補助金など ■繰入金＝積立てした基金を取り崩したお金 ■総務費＝全般的な事務経費や財産管理、統計調査費、広報経費など ■民生費＝老人や障がい者、児童などの社会福祉のための経費 ■公債費＝事業を行うために借入れたお金の返済金 ■自主財源＝町税や繰入金など町が独自に調達できるお金 ■依存財源＝国や県から交付されるお金や割り当てられる収入

総務費	公債費	教育費	民生費
 31,434 円	 36,615 円	 69,884 円	 102,461 円



一般会計予算を町民一人当たりで見ると・・・

342,731 円

平成 22 年 3 月 1 日
現在の人口 27,048 人

主な事業の内容

<単位：万円(千円を四捨五入)>

■ ■ ■ ■ 総務費 ■ ■ ■ ■

- ▶職員研修事業…………… 238
- ▶行政区管理運営事業…………… 1,241
- ▶人材育成事業(国際交流)…………… 300
- ▶交通安全指導事業…………… 648
- ▶防犯対策事業…………… 181
- ▶コミュニティ推進事業…………… 1,253

■ ■ ■ ■ 土木費 ■ ■ ■ ■

- ▶道路維持事業…………… 7,784
- ▶除雪事業…………… 2,238
- ▶町道の新設改良事業…………… 6,340
- ▶河川改良事業…………… 158
- ▶駅東西自由通路等維持管理事業…………… 1,774
- ▶都市公園の維持補修事業…………… 496
- ▶町営住宅の改修事業…………… 1,314

■ ■ ■ ■ 衛生費 ■ ■ ■ ■

- ▶成人検診事業…………… 4,506
- ▶母子保健事業…………… 3,504
- ▶予防接種事業…………… 4,158
- ▶感染症総合対策事業…………… 541
- ▶浄化槽設置整備事業…………… 775
- ▶ごみ処理場運営事業…………… 4億 0,259

■ ■ ■ ■ 農林水産業費 ■ ■ ■ ■

- ▶農業経営構造対策事業…………… 205
- ▶農作物流通消費拡大事業…………… 277
- ▶農業生産振興対策事業…………… 929
- ▶ほ場整備事業…………… 8,453
- ▶かんがい整備事業…………… 3,565
- ▶煙山ダムの維持管理事業…………… 667

■ ■ ■ ■ 消防費 ■ ■ ■ ■

- ▶非常備消防事業(消防団など)…………… 3,039
- ▶消防施設維持事業…………… 748

■ ■ ■ ■ 商工費 ■ ■ ■ ■

- ▶商工業振興事業…………… 1,542
- ▶中小企業振興資金貸付事業…………… 555
- ▶自然公園維持管理事業…………… 245
- ▶企業誘致推進事業…………… 210

■ ■ ■ ■ 労働費 ■ ■ ■ ■

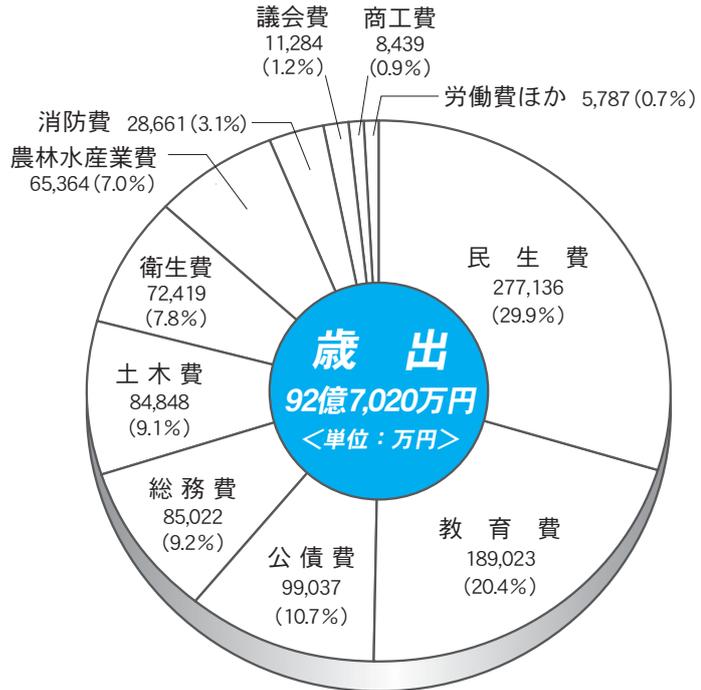
- ▶就労者支援事業…………… 237
- ▶融資貸付制度事業…………… 2,900

特別会計については、国民健康保険事業をはじめとする7会計が総額56億8811万円となりました。企業会計の水道事業は、収益的支出と資本的支出を合わせ、8億111万円となっています。

■ 特別会計・企業会計予算

お金の使い道(歳出)では、子ども手当の新設により民生費が27億7千万円(29.9%)、中学校建設で教育費が18億9千万円(20.4%)、公債費が9億9千万円(10.7%)となっています。

や借入金、子ども手当負担金により大幅に増額となることから、全体に占める自主財源の割合は、前年比9.5ポイント減の44.1%となりました。国からの地方交付税は1億3千万円増額(21.1%)となっています。



平成 22 年度特別会計・企業会計の予算

会計名	予算額	会計名	予算額
国民健康保険事業	215,087	農業集落排水事業	32,062
老人保健	352	矢幅駅周辺土地区画整理事業	74,154
介護保険事業	136,083	水道事業	55,009
後期高齢者医療	15,626	資本的支出	25,102
下水道事業	95,447		

単位：万円(千円を四捨五入)

消防費ほか



20,028 円

農林水産業費



24,166 円

衛生費



26,774 円

土木費



31,369 円